



家の表情が変わる「玄関ドア」の種類と選び方特集

表情豊かに住まいを演出するのが玄関です。玄関の表情は玄関ドアの種類やカラー、デザインで大きく変化します。また、デザイン性だけでなく、敷地の条件や住まいの機能性にも配慮して選びます。今回は玄関ドアの種類や選び方を大まかに解説します。



住まいのデザイン性と暮らし方で選ぶ!

● 片開きドア (開き戸)

大きく分けて玄関ドアには開き戸と引き戸の2種類がありますが、和風・洋風、また、敷地の広さや形状によっても様々な種類のものが用意されています。一般的で、多く使用されているのが片開きドアです。一枚のドアが開閉するベーシックなもののですが、定番だけにデザインやカラー、材質など様々な種類があります。機能的には、間口があまり広く取れないコンパクトな玄関に適しています。

● 袖付きドア (開き戸)

上記の片開きのドアの横に袖のような小さな窓がついている玄関ドアです。玄関部分に袖付きのスペースが必要となるので、片開きドアより間口を広くとる必要があります。ただし、広く取った分だけ、玄関にゆとりを感じることができます。袖部分にガラスを多く使ったものを選べば、玄関内に光が廻り、室内を明るく演出することができます。

● 親子ドア (開き戸)

袖付きドアと見た目は似ていますが、メインである大きなドアと間口を広くしたい時に開く袖(小さなドア)を合わせたタイプです。家具や電化製品、ピアノなどの搬入の時には便利です。また、車椅子の幅にも対応できるのでバリアフリーの住まいには欠かせません。

● 両開きドア (開き戸)

左右対称の玄関ドアが両方に開くことで、大きな開放感を演出することができます。間口も広く、大きな邸宅に使用し高級感を演出することができます。必要のないときは片開きにして使うことも可能です。家具等の搬入や多くのお客様をお迎えすることができます。

● 引き違い戸 (引き戸)

次に、引き戸の種類をご紹介します。引き戸と言えば和風のイメージですが、和洋折衷や洋風の家に合うタイプのものもあります。代表的なものは引き違い戸です。左右の引き戸をスライドさせて開閉します。引いた戸はもう1枚の戸と重なる事になるので、実質的な開閉スペースは扉1枚分になります。縦に開くことはないので、開き戸に比べると随分省スペースになります。

● 片引き戸 (引き戸)

片引き戸は、引き違い戸とは異なり、玄関の戸が1枚だけです。開き戸に比べ、引き戸は和風のイメージが強くなりますが、片引き戸の玄関は洋風の住まいにもマッチしやすいデザインです。もちろん、扉を1枚しか使用しないので、コストも抑えることができます。

● 両引き込み戸 (引き戸)

2枚の戸を左右に引き込むタイプの玄関になります。基本的には2枚の引き違い戸があるため間口の広さが必要です。引き違い戸ですから前後のスペースはいりませんが、開口部に2倍の広さを確保する必要があります。玄関を広く取った和風の邸宅におすすめするタイプです。

■ スペースの取れない玄関なら 洋風引き戸

最近はコンパクトな敷地に、機能的な住まいを希望される若い方が増えています。そんな方におすすめするのが洋風引き戸です。車からの出入りが窮屈だったり、門扉で玄関前のスペースが十分に取れない場合、ドアを開けたまま買物の荷物を搬入できたり、ベビーカーを押しての出入りもとても便利です。

